# 子供が自由に遊べる街

昨今、日本の社会問題として少子高齢化問題がしばしば取り上げられている。少子高齢化とは、単純に若者が減り老人が増えるという実に単純な減少だが、少子化にいたっては、消費、教育、土地住宅関連等、高齢化にいたっては、年金社会保障、雇用労働問題等様々な分野に影響を及ぼすことは自明と考えざるを得ない状況にきている。

特に雇用問題については、当面の完全失業率 5%以上の高止まり減少と、2007 年以降人口減少による労働活力低下懸念があり、日本経済への多大なインパクトとなるのは自明である。

このように少子化問題が注目されている中、再雇用制度や育児休業制度などの出産に関わる対策が整備されつつある一方で、その中心である子供たち自身が健全に育つための環境作りははほとんど実現されていない。子供たちが気軽で自由に遊べる空間が減りつつあるように思える。特にこの傾向は、都市域においてよく現れている。

そこで、子供たちが自由に遊ぶことが出来る街づくりに関して、九州一の大都市である福岡市を対象とし、子供が自由に遊ぶことが出来る街づくりについて提案する。

## ＜問題点＞

都市には、人や物、あるいは資本が集中しており、余分なスペースを有していないため、公園などの公共施設の絶対数が少ない。福岡市内にも大濠公園など、非常に魅力がある施設が存在しているが、その近郊に住む子供たち以外にとっては、そこにたどり着くまでには道のりがわからない、距離が遠い、両親の許しが出ないなど多くの困難を有しており、気軽にそれらの施設を利用できないでいる。また、不特定多数の人間が流入することで、治安が悪化し人々のモラルが低下している。そのため、都市域に住む子供たちには遊びのための制限が数多く存在する。

これら、子供たちの遊びに対して制限をかけているものをまとめると以下のようになる。

- 道がわからない（行動範囲が制限される）
- 誘拐などの恐れがある
- 距離が遠い（公園などの公共施設が少ないため）

＜提案＞

・ 子供向けの標識の充実

　子供達にとって行きたいと思う目的地はあっても、目的地までの道のりが分からないため、そこへ行くことを断念するということがある。特に福岡のような大都市においては、道路が整備されており似たような風景が数多く存在するため、道のりが非常に分かりにくくなっている。道路には数多くの標識が存在しているが、これらは主に自動車利用者を対象として作られたものである。自動車を運転する人や、道路を利用している経験が多い大人達にとってはさほど不便なものではないが、経験が少ない子供達にとっては道路標識等によって示される情報を理解することは困難である。そこで、イラストやひらがなを使って視覚的に理解することができる、子供向けの道路標識を整備する。迷うことなく目的地までたどり着けるようにし、道のりがわかれば子供たちが、そこへ行くことを断念することも無くなり、比較的自由に行動できるようになる。

・ 防犯システムの整備

　少年少女の誘拐等の事件が数多く発生している。このような現代において、不特定多数の人間が存在する都市域の子供の親にとっては、子供を一人で外出させることには非常に大きな抵抗が生じ、結果として子供たちの移動に制限をかけるものとなっている。この問題を解決するために、カメラなどの監視システムを設置し、問題が発生する事を未然に防ぐ。

・ 自転車利用の促進、

　先にも述べたが、都市では公園等の公共施設を確保するためのスペースが不足しておりその絶対数は少ない。そのため、子供たちが既存の公共施設を利用するためには、相対的に移動区間が長くなってしまう。そこで、快適に自転車を使えるような環境を作りあげるために、歩道等に自転車専用レーンと歩行者専用レーンとを区別する。これは、両者の通行をスムーズにし、自転車を快適に利用することが可能になることや、自転車と歩行者の間の事故を防止することに繋がる。また、鉄道、路線バスなどの公共交通機関への自転車の持ち込みを促進させることで、どこでへでも自転車と移動できるようにすることで、比較的遠距離にある公共施設を容易に利用することができるようにする。